

放送日 令和2年3月2日（月）

担当者 消防署救急課 松岡 俊介

おはようございます。救急課の松岡です。

本日は私が担当している救急に関連したお話しをしたいと思います。救急出動は年々増加傾向にあり、昨年1月から12月までの救急出動総件数は2,289件と前年と比較し44件の増加で1日平均にすると約6件となりました。

救急の現場では1分1秒を争う重症度や緊急度が高い現場がある一方で軽症事案も多く全国的にも市民の方々には適正利用を働きかけていく必要もあるのが現状です。現場ではその病状に対する観察や処置だけではなく周りの家族を含めた関係者から発症に至った状況を聞く情報聴取も大切です。場合によっては時間をかけて話を聞いた安心感によって症状軽快に繋がっていくこともあります。どのような場面においても多角的視点を持ち冷静沈着に判断をし迅速的確に行動することが求められ、そのことが傷病者や関係者等に少なからず安心感を与える事に繋がっていくものと考えています。

いずれにしても初めに接触する医療関係者としてその責務は重大であると常々感じています。そのような現場活動を実践するためには思いやりや誠実性を忘れず日頃の学習や訓練が必要です。

また、2023年予定のボールパーク開業に伴い、日中人口の増加等による更なる出動件数の増加、大型商業施設やホテル等の建設や外国人観光客増加等、外国の方に対する言葉の壁。地震や台風等の突然直面する多種多様の災害があった際の対応への事前準備。若手職員への指導

。課題は多くありますが一つ一つ実践していけるように努め、職員同士互いに切磋琢磨して常に市民目線で考えていければと考えています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和2年3月3日（火）
担当者 消防署救急課 松倉 昌彦

おはようございます。消防署救急課の松倉昌彦です。

今日はひな祭り、桃の節句の日です。ひな祭りはなぜ桃の節句というのでしょうか？そもそも、節句というのは季節を分ける節目のことです。中国から入ってきた考え方で、奇数が重なる日には悪いことが起きると考えられており、その災いや邪気をはらうために祭りなどをするようになりました。桃の花の開花は三月下旬から四月上旬ですが、なぜ桃の花なのでしょう？旧暦の三月三日は現在でいうと一カ月遅いくらいで、ちょうど四月上旬になります。新暦になっても三月三日を桃の節句としたことから桃の花を飾ることになりました。また、百歳のことを「ももとせ」といい、それまで生きられるようにという長寿の願いが込められています。しかしそれだけではなく、桃は邪気をはらう力があるといわれており、鬼退治に行くのが「桃太郎」なのもそのためです。なぜこのような話をしたかという、最近コロナウイルスによる感染者の人数が日に日に増え、北海道の感染者数が一番多く、北広島市近隣でも感染者数が増えていることは皆さん新聞やテレビ等でご存知のことと思います。消防隊、特に救急隊は患者さんと直接接する機会がお多いため感染するリスクが高いのです。出勤の時の予防策はしっかりと行っています。帰宅した時も、手洗い、うがいをすることはもちろん、他にもバランスの良い食事を採り、適度な運動をし、しっかりと休息をとり、明日の勤務に備えています。今日は、ひな祭り、桃の節句なので、「自分は病気にかからないから、救急車を必要としている人の助けができるのだ」という願いを込めて、今日も一日頑張りたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張らしましょう。

放送日 令和2年3月4日(水)
担当者 消防署大曲出張所 大西 克寿

おはようございます。消防署大曲出張所の大西克寿です。

私は恵庭市島松の東町出身なのですが、実家は恵庭岳が綺麗に見える場所で、子供の頃からその景色を眺めて育ちました。ですので、恵庭岳の姿といえば実家から見える姿が恵庭岳の正面だと勝手に思いこんでいて、その角度以外から見える恵庭岳は、何処か違和感があり「あ～やっぱり家から見る恵庭岳が一番かっこいいな～」なんて思っていました。

今、私は消防署大曲出張所で勤務をしているのですが、
ここの大曲出張所は平成26年8月に移転しました。

移転後、出張所の事務所からも恵庭岳が見えるようになったのですが、やはりここから見える恵庭岳は実家から見えた姿と違い「あ～なんか違うんだよなー」と思っていました。

ですが、3年間ほどこの景色を見ているうちに、「あら？ここから見る恵庭岳もなんか情緒があっていいかも？」と思えてきたのです。今までは勝手に正面だと決めつけて、それ以外の角度を何処か否定してきたのですが、違う角度から見える恵庭岳の姿も違う良さがあることに気づきました。

これは人間に例えても同じことが言えるのではないのでしょうか？今まで勝手に思い込んだ他人の印象を、勝手にその人の正面の顔と思い込んで、その人のイメージを決めてつけていたのではないのか？違う角度からその人を見たとき、その人の違った良い顔が見えてくるのではないのでしょうか。

固定概念にとらわれず、いろんな角度から物事が見れる人間になれるよう今は努力しています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和2年3月5日(木)
担当者 消防署西の里出張所 後 小太郎

おはようございます。消防署西の里出張所の後です。

突然ですが皆さんは「A LIFE」という木村拓哉さんが心臓外科医を演じたドラマをご存じでしょうか？その中で「オペは準備ですべてが決まる」「怖いっていうことは準備ができていないことだからオペしちゃいけない」というセリフがとても印象的でした。

皆さんも仕事に対し少なからず不安や怖さを感じた事があるのではないかと思います。

私はいつも不安だらけですが「不安や怖さ」＝「準備不足」なわけですから、準備をしっかりすればそれは無くなるという事になります。私達にとって「準備」は主に「訓練」だと思えます。しかし、消防の仕事は皆さんご承知のとおり火災現場以外に交通事故現場や救急現場など多岐にわたる災害に対応することが求められており、訓練をしっかりしていても災害現場に向かう前に不安に思うことも少なくありません。

つまり、不安や怖さを感じる時は自身の準備の範囲を超えている時で想定している範囲が自分サイズで留まっているということだと思います。

自分が考えもしなかった意見や考えは否定的になってしまうのが人間の性ですが他者を肯定的に考え、相手を理解しようと努力することが自身の想定範囲を広げる第一歩だと思います。

日常の中で同僚や先輩・上司との何気ない会話や共に培った経験を大切に、日々の自分を見つめなおしながら現状の自分に満足することなく努力し相互理解に努め更なる市民サービスのための「準備」を続けていきたいと思えます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。